北海道釧路湖陵高等学校

SSH newsletter

発行日 2020.10.29
発行者：SSH 推進部
No.5

池内了先生をお迎えして（SSH特別講演会、特別授業）

１０月２３日（金）は池内了先生をお迎えして特別講演会、特別授業を実施いたしました。２週間前からこの情報を皆さんに伝え、図書室にも先生の著書のコーナーを設けました。反響は上々で、皆さんも実際にお会いできることを楽しみにしていたことと思います。先生は前日の夜、京都から釧路へ移動して来ました。初めにお会いした時から気さくな方で、私たちと同じ目線でお話しされる方だと思いました。当日は、３年生対象に４０分間の講演から始まり、１年１組対象に１１０分の特別授業、１，２年生対象に９０分の講演、希望者に６０分間のフリートーキングと長い時間を通して皆さんに指導して頂きました。

【講演とその内容】

３年演題：「科学を糧にして」　１・２年演題：「科学との付き合い方」

- 科学をなぜ学ぶのか。
- 科学を学ぶと、見えないところで何が起こっているのかを考え見抜く力がつく。
- 科学を学ぶと、何事にも自信が持てる、そして意見が言える。
- 良い方向へ向かうためには科学的な見方が重要である。
- しかし科学の限界・欠点を知ることも大事である（科学的思考が大切）。
- 学問は、学び方を学ぶことである。
- 市民として科学と付き合っていくために、科学を理解し監視し批判する。そのためにもしっかり科学を学ぶことが大事である。
- コロナ禍後の世界を想像する。創造していくのは君たちである。

講演会の様子（１）

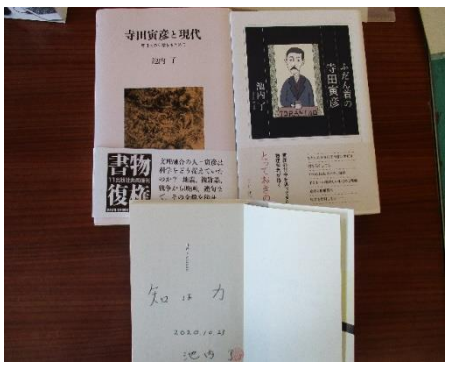
講演会の様子（２）

講演会の様子（３）

１年１組での特別授業

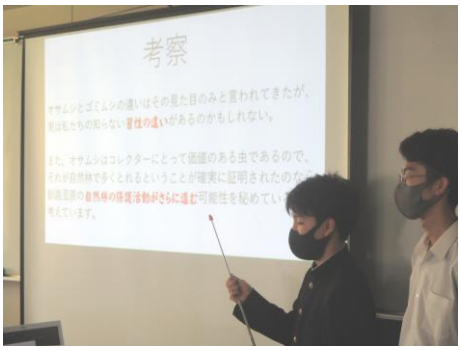
フリートーキング

池内先生より頂いたサイン入り図書



湿原巡検成果発表会を終えて（1年1組　KCS基礎）

１０月２０日（火）の３・４時間目に、湿原巡検成果発表会を実施いたしました。これは、８月に実施した湿原巡検のデータをまとめ、結果から考察されることを各班が発表するものです。今回は本校ＳＳＨ運営指導委員でもある釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員 新庄久志 さん、環境省自然保護官 瀧口さやか さんを助言者として迎え実施しました。パワーポイントのスライドを使い、５分という制限された時間の中で、概要、得られたデータの結果、そこから導かれる考察、今後の展望と伝えることを整理していかに端的に説明できるか、この活動の中には色々な学習の観点が盛り込まれています。勿論、すべてがうまくできるわけがありません。失敗をして次につなげてくれればいいのです。このＫＣＳ基礎のプログラムは、探究のプロセスを繰り返しながら自分が「できない」部分を認識し、そこをスタートにして次の過程に進んでいくことを目的としているからです。この湿原プログラムは、最後に英語発表会へと移りますので頑張っていきましょう。



普通科探究活動は100秒スピーチが終わりました

普通科探究活動は２週目が終了し、各領域で１００秒スピーチが終了しました。個人で考えてきた探究テーマを共有した時間となりました。人数の少ない領域は、グルーピングまで終わっているようです。今週、グルーピングを行う領域がほとんどでしょうか。グルーピングができたら探究テーマを掘り下げて最終的なテーマを決定して下さい（探究活動では、ここまでが難しいと言われています。）

地理・歴史系領域

生物系・釧路湿原領域

言語系領域

11月6日(金)KCS探究(2年1組)中間発表を行います

２年生理数科は、８月から探究活動を開始しています。２か月が経過したところですが、テーマを模索しているグループから、実際に実験を行っているグループまで様々だと思います。この時点で一度、今まで行ったことを整理して中間発表を行ってみましょう。もちろん、実験の結果が出て考察ができる段階ではないことはいうまでもありません。現状はどうなっているのか、今後の実験計画や方針はどうするのかなどを発表し、色々な方からアドバイスを受けて下さい。たくさん質問されることで、考える材料を見つけて下さい。